

救助工作車 と緊急走行

新しい救助工作車が1月28日、消防署に配備されました。これは平成2年に購入した救助工作車が老朽化したため、今回、買い換えました。

救助工作車とは、交通事故や災害時に人命救助に使われる消防車両です。昨年1年間で56回出動しています。

搭載されている救助器機は全部で84点。鉄筋や車のドアを切断できる大型油圧カッターや、すき間を広げる大型油圧スプレッダーなどの従来装備品に加え、クレーンや小型カメラを使った簡易画像探索機など7点が新たに装備されました。「人命救助の現場で、より迅速な救助活動につながる」と、担当する救助隊員は言います。

この救助工作車は隊員の習熟訓練を経て、2月23日から実戦配備されました。

救助工作車

全長／全幅／全高	778 cm／230 cm／312 cm
車体総重量	10,990 kg
エンジン／馬力	ディーゼル／220馬力
排気量	6400 cc
乗車定員	5人
購入価格	6,804万円

新車紹介 レポート 救助工作車



●主な新規の装備品

消火器と三脚、照明



上の写真は、車両火災の初期消火に使用するポータブル消火器。最大18m先まで消火剤を高速放水できます。また、縦穴のマンホールに落ちた人を救助するための滑車付きの三脚を装備したほか、照明装置も強化しました。

簡易画像探索機



最大5mまで伸びる伸縮棒の先端に取り付けられた小型カメラで、がれきの中や水中などの探索に使用。画像は手元のモニターで見ることができます。カメラには撮影用のライトが搭載され、遠隔操作で撮影方向も変えられます。

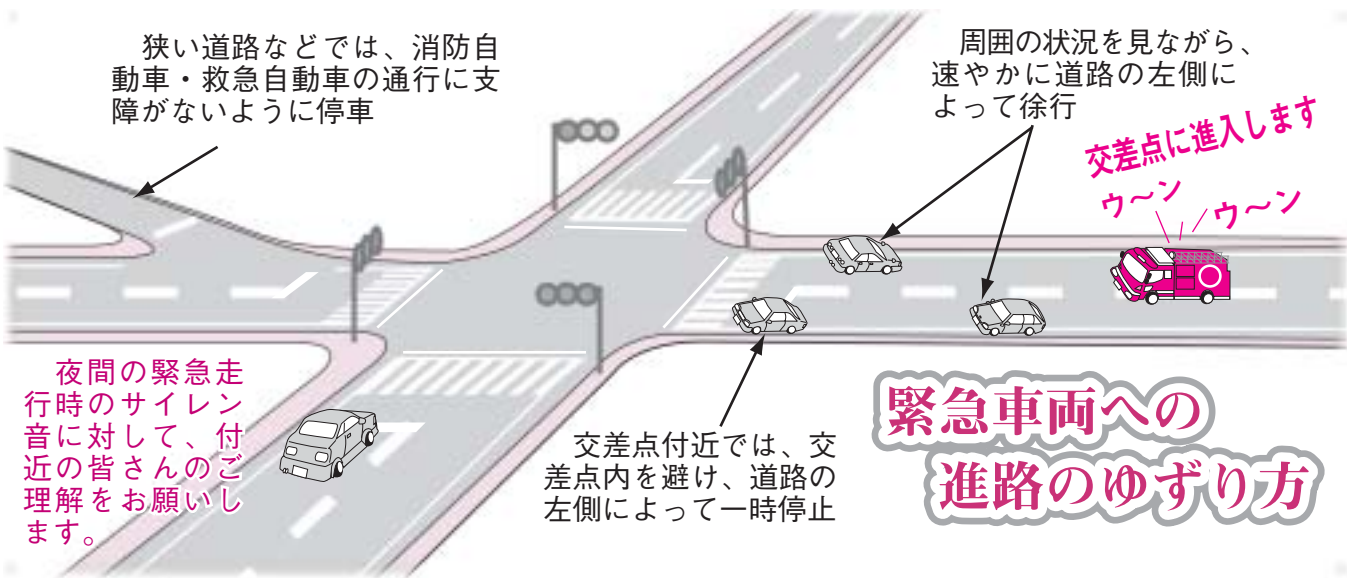
救助用クレーン



最大吊り上げ能力2.93tのクレーンを車両後部に搭載。クレーンのアームは、最大7.7mまで伸びます。重量のある物の吊り上げはもちろん、斜面など足場の良くない現場や高低差のある場所で、その機能を発揮します。

災害情報は、電話92-0119で案内

火災、救助、救急支援などの情報をお知らせします



緊急車両への 進路のゆずり方

消

防自動車や救急車などの緊急自動車は、一刻も早く火災などの災害現場に急行し、消防活動を行ったり、急病人などへの応急処置や病院へ搬送したりしなければなりません。

緊急自動車がサイレンを鳴らしながら接近してきた場合

は、周囲の状況を見ながら、速やかに道路の左側によって徐行し進路を譲ってください。

また、交差点付近では、交差点内を避け、道路の左側によって一時停止してください。

消防自動車や救急車などの円滑な緊急走行のために皆さんのご協力をお願いします。

緊急自動車には、

消防車・救急車

道を譲って

救

急隊に支援が必要となり、その救急現場へ支援に向かう消防自動車やサイレンを鳴らし緊急走行をします。

救急隊に支援が必要となるときとは、

交通事故や、階段や通路など

が狭く傷病者の搬送がむずかしい場合など。消防隊は救急現場で、けが人や救急隊の安全確保や救急

隊の後方支援活動を行います。

火災や救助

以外でも、消防自動車は緊急走行します。

消防自動車は緊急走行します。

問い合わせ 消防本部警防課 (☎92-8342)

平成19年中の 火災・救急状況

火災・救急件数ともに増加

火災件数は34件で、前年に比べ3件の増加です。そして、2人の尊い生命が奪われています。建物火災が17件と最も多く、以下、林野火災5件、車両火災4件などとなっています。出火原因は、「たき火」「こんろ」「放火・放火の疑い」によるものが、上位を占めています。火の取り扱いには十分注意しましょう。

救急出動件数は2296件で前年に比べ40件の増。1日平均6.3回出動したことになります。搬送件数の69%が市外の医療機関への搬送です。種別ごとに見ると、急病による搬送が1273件で半数以上を占めます。